

2017広島県政白書

県民に 寄り添う 広島県政へ



編纂 広島県政白書実行委員会
発行 広島自治体問題研究所

はしがき

湯崎英彦氏は、2009年11月に知事に就任し、現在2期目の最後の年を迎え、2017年11月に県知事選挙が実施される予定です。そこで私たちは、2017年1月24日に県政白書作成実行委員会を結成し、事務局会議や県政研究会、様々な運動団体の自主的な研究会活動における湯崎県政の批判的検討を通じて、県民の皆さんに判断材料を提供し、県民のいのちと暮らしを守る県政の政策提言をまとめる活動をしてきました。その結果、湯崎県政の1期目を総括した『2013広島県政白書 新自由主義県政と県民生活』に続き、湯崎県政8年間を総括する「第4次広島県政白書」を作成することができました。白書作成に参加された多くの県民の皆さんに改めてお礼申し上げます。

7月2日の東京都議選における自民党の惨敗に表れているように、安倍政権に対する批判が大きな高まりを見せています。そこで格差と貧困を拡大する安倍政

権と同じ方向で県政を進めている湯崎県政の問題点を、第Ⅰ部「総論」、第Ⅱ部「備北地域の政策」、第Ⅲ部「各論」及び第Ⅳ部「研究者からの提言」を通じて明らかにしました。

第Ⅰ部では、安倍政権による大企業優先の成長戦略の下での湯崎県政の8年間で作られた格差と貧困という問題に焦点を当てて、現状認識及びそれに代わる対抗政策を提起しています。第Ⅱ部では、湯崎県政によって切り捨てられてきた地域の実情を備北地域の検討を通じて明らかにしています。第Ⅲ部では、県内の様々な運動団体等が取り組んできた個別の課題についての県政の問題を明らかにしています。そして第Ⅳ部では、研究者からの問題提起を掲載しています。

この県政白書が多くの県民のみなさんに読まれ、この白書を素材として県政についての議論が巻き起これば私たちにとっては望外の幸せです。

2017年10月1日

広島県政白書実行委員会委員長
村上 博

県民に寄り添う広島県政へ

目 次

はしがき	1
------	---

第Ⅰ部 総論

1. 広島産業・就業と貧困	6
2. 県民生活から遊離した湯崎県政	34
① 湯崎県政の行政経営	34
② 湯崎県政の地域経済政策	39
3. 県政への政策的提言	
県民の暮らし・福祉第一、災害に強い県政へ	46

第Ⅱ部 備北地域の政策

備北地域で住み続けられるために

1. 平成の大合併と備北地域の実態	54
2. 地域循環型経済の在り方を追求する中小企業・小規模業者の願い	58
3. 基幹産業は農林業…その実態と課題	60
4. 三次市・庄原市・安芸高田市の課題	64
5. 地域医療・介護・保育・福祉の課題	66

第Ⅲ部 各論

1. いのちとくらし	
① 広島と災害 ― 安心して暮らせる広島県に	70
② 全国でも先取りして進む広島県の医療費削減	79
③ 年をとっても安心して暮らせる高齢者福祉・介護保険に	87
④ 広島県国民健康保険の県単位化の現状と課題および県の役割	91

⑤	子ども医療費助成制度の現状と改革案	100
⑥	憲法 25 条の理念に基づく県の生活保護行政を	107
⑦	県営住宅の検証	111
⑧	保育の現状と施策の充実に向けて	113
⑨	新支援制度になってからの学童保育の現状と課題	120
⑩	障害児・者福祉政策の問題点	124
⑪	働き方改革と、広島女性の地位向上の課題	131
⑫	県労働行政	137
2. ゆきとどいた教育すすめる広島県教育の実現を		
⑬	公立学校関係	140
⑭	公立高校関係	144
⑮	私立学校関係	146
3. 平和		
⑯	広島県の平和行政	150
⑰	広島県内の日米軍事基地問題	155
4. 行政		
⑱	広島県財政の過去と現在	162
⑲	権限移譲経過と県政運営の課題	178
⑳	指定管理者制度（公務の民営化）の抜本的な見直しを	182
㉑	広島県の情報公開を問う	188

第Ⅳ部 研究者からの提言

1.	広島県の社会保障の現状、行政の果たすべき役割	194
2.	広島県（湯崎県政）における教育と教育行政	199
3.	広島県『環境白書』の読み方	204
あとがき		211

表紙の木版画
「2017年の原爆ドーム」
卯野 勝海



1981年11月20日発行



1985年10月20日発行



2013年9月30日発行

あとがき

広島自治体問題研究所が「広島県政白書」を編集・出版するのは、本書が4度目である。

第1次県政白書は『みんなでみつめた広島県政』と題し、1981年11月に刊行した(編集・刊行者の名称は「自治体問題研究所・広島研究会」であった)。柿手春三さんの手になる表紙絵がコンクリートに閉じ込められている人間を抽象的に描いていたことが話題となり、また、タイトルを「みんなで冷たい広島県政」と読み違える人が「続出した」というエピソードが残されている。この白書は、広島県職員であった人たちが、自分たちの行っている「仕事」を県民の目で見直そうとしたものでもあった。

第2次県政白書は『点検ひろしま』と題した(1985年10月刊行)。表紙は、四國五郎さんに戦前の猿猴橋を情緒豊かに描いていただいた。第2次白書は第1次白書を引き継ぐとともに、広島自治体問題研究所に集う研究者の協力を得て作られたものであったことを特筆しておきた

い。

その後長い時間が経過して、ようやく2013年9月に、県民・市民が、自分たちは広島県政を「こう見る」「こんな問題がある」「こんなふうに改めてはどうか」という思いをもとに、手作りで第3次県政白書『新自由主義県政と県民生活』を編集・出版した。

このたびの第4次県政白書では、研究者から貴重な問題の指摘と提言を寄せていただくことができた。特に記して、感謝の意を表したい。

4たびの「県政白書」は、本研究所なりに、その時々政治社会状況と広島県政に向き合った、ささやかな証しであり成果である。広島県内で県民・市民の観点から、県政を継続的にウォッチングしている民間研究組織による自前の出版物である。出来栄は必ずしも十分といえないかも知れないが、広島県政の変革・革新を願う多くの人々に本書が活用されることを切に願っている。

2017年9月

広島自治体問題研究所 顧問

田村和之

(広島大学名誉教授)

2017 広島県政白書
県民に寄り添う広島県政へ

発行日 2017年10月1日

編纂 広島県政白書実行委員会

発行 広島自治体問題研究所
〒730-0051 広島市中区大手町5-16-18
TEL 082-241-1713
E-mail hjitiken@urban.ne.jp
<http://kyodo-support.com/jitiken/>

頒価 1500円